横浜大会の歴史と未来構想マップ 「ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会 持続可能な大会運営を目指して」

World Triathlon Championship Series YOKOHAMA 2026

2009-2019 第1ステージ 「トライアスロン・パラトライアスロンの街、横浜」の基盤づくりと推進

2020-2024 第2ステージ パートナーシップに支えられる大会づくり

2025-2029 第3ステージ 新たな未来の創造

2030- 第4ステージ 次世代運営

ハマトラ未来プロジェクト、キッズプログラムで育った子ども達 他

ビジョン＆コンセプト（第1・第2ステージ）

1. トライアスロン・パラトライアスロンの街 横浜の推進
2. すべての人が互いに認め合い共に生きていく社会づくり
3. 国際都市横浜を世界へ情報発信
4. 大会運営を通じた地球環境の保全と創造への取り組み
5. スポーツツーリズム推進による横浜の地域経済の活性化
6. パートナーシップによる大会づくり（感謝そして未来へ）

水質浄化実証実験
汚濁防止水中スクリーン設置による実証実験スタート

環境啓発イベント
大会運営を通じた地球環境の保全と創造
Green Triathlon

競技参加が地域にも根付く
エイジ競技導入後、3年間で、神奈川県の競技人口が2倍以上に大幅伸張。
（神奈川県内では年間約2.5千人以上の会員登録）

パラミーティング実施
パラトライアスロン競技初導入
パラトライアスロン パラリンピック正式競技に採用

Road to RIO DE JANEIRO
Road to TOKYO（2021延期開催）
Road to PARIS 2024
Road to LOS ANGELES 2028
Road to BRISBANE 2032
Road to LONDON

2007
2009 第1回大会
2010
2011 第2回大会
2012 LONDON 第3回大会
2013 第4回大会
2014 第5回大会
2015 第6回大会
2016 RIO 第7回大会
2017 第8回大会
2018 第9回大会
2019 第10回大会
2020 TOKYO
2021 第11回大会
2022 第12回大会
2023 第13回大会
2024 PARIS 第14回大会
2025 第15回大会
2026 第16回大会
2027 第17回大会
2028 LA 第18回大会
2029 第19回大会
2030 第20回大会

横浜開港150周年
横浜開港155周年
横浜開港160周年
横浜開港165周年
横浜開港170周年

世界こどもスポーツサミットin横浜
世界キッズトライアスロン大会
エイジ競技初導入
APEC横浜開催に伴い大型イベント開催自粛
チャリティエントリー開始（限SDGsエントリー）
横浜こどもスポーツ基金設立
キッズプロジェクト実施
パラ部門シリーズ化
観戦者数 46.5万人
前日バイク試走の実施
OCA「スポーツと環境賞」受賞
第10回記念「キッズドリームフェスタ」
第10回特別企画実施「元町キッズランクリニック」
COVID-19感染拡大防止により第11回大会の開催を見合わせ
Future Project
東京2020オリンピック・パラリンピック代表選考会
東京2020パラリンピック 日本初のメダル獲得
東京2020パラリンピックで初のメダル獲得 宇田秀生選手・銀／米岡聡選手（ガイド楠添平選手）・銅
上田藍選手 ハマトラ アンバサダー就任
33の国と地域から参加
ウクライナ選手を支援
TRIサステナビリティ認証「GOLD」取得
ワールドトライアスロン理事会の誘致・開催
パリ2024オリンピック・パラリンピック日本代表選考会
ハマトラ未来プロジェクト始動
キッズプログラム再開
新型コロナウイルス感染症5類移行後、日本で初の国際大会として開催（31の国と地域から参加）
ワールドトライアスロンと5か年契約締結（2025年-2029年）
横浜市庁舎アトリウムで選手記者会見を初開催
第15回記念事業❶ ファミリーFUNラン（雨天等のため開催中止）
第15回記念事業❷ スイムポンツーンウォーク＆稚魚放流
2027年国際園芸博覧会との広報連携
GREEN×EXPO 2027と協力した取組の実施
2027年国際園芸博覧会 横浜・上瀬谷 2027.3.19–9.26
2028 LAオリンピック・パラリンピック代表選考大会（予定）
トライアスロン発祥の地 カリフォルニア州で開催（会場：ベニスビーチ）
ハマトラ未来プロジェクトによる新たな運営 ～新たな時代の幕開け～

ISO20121取得
国内イベント分野で初の「ISO20121認証を取得

パートナーシップによる大会づくりと持続可能な取組／横浜から世界へスポーツと文化を発信

ISO20121・SDGsを念頭においた持続可能な大会運営

横浜大会の主な出来事と目標

2009 第1回大会開催 井出樹里選手が3位表彰台
- 第1回大会開催（エリート・ユース部門）
- 世界こどもスポーツサミットin横浜開催
- 世界キッズトライアスロン大会開催
- NHK BSによる中継放送（以後継続実施）
- 観戦者数 合計27万人

2011 東日本大震災により9月へ延期開催
- エイジグループ競技の導入
- 環境保全イベント「グリーントライアスロン」開催（以後継続）
- JibTVによる国際放送
- "Triathlon Solidarity"による世界からの支援

2012 国内イベントで初のISO20121取得
- パラトライアスロン競技初導入
- パラトライアスロンミーティングの実施
- イベントマネジメント国際標準規格 ISO20121取得

2013 パラトライアスロン競技が国際イベントに認定
- チャリティエントリーの実施と寄附
- ISO20121を組織として取得（以後継続）

2014 上田藍選手が2位表彰台（日本人歴代最高位）
- 秦由加子選手（PTS2）が優勝
- パラトライアスロン・エリート部門を独立
- 市内小中学校でのオリンピアン（上田藍選手・庭田清美選手）によるトライアスロン教室の開催
- 観戦者数がはじめて 合計40万人を突破

2015 パラトライアスロン秦由加子（PTS2）選手が優勝
- 横浜ブルーカーボン事業との連携（CO2オフセット）
- パラトライアスロンのエイジ部門を新設
- 交通安全パレードの実施
- ハンドサイクル・タンデムバイクの試走実施

2016 リオ選考会・上田藍選手が3位表彰台
- リオ五輪代表選考会として開催
- リオ五輪ポイント獲得最終レースとして実施
- エリート選手の協力により熊本地震災害 義援金・支援金募金の実施

2017 パラ初のシリーズ化（横浜は第2戦）
- 土田和歌子選手（PTWC）・谷真海選手（PTS4）が優勝
- バイクコースの一部を赤レンガ倉庫に変更
- 前日バイクコース試走の実施（エリート・エリートパラ対象）

2018 OCAで日本初の「スポーツと環境賞」を受賞
- 土田和歌子選手（PTWC）谷真海選手（PTS4）が優勝
- アジア・オリンピック評議会（OCA）で日本初の「スポーツと環境賞」を受賞
- 観戦者数が過去最多を記録（合計42.1万人）

2019 第10回記念大会開催 新たなステージへ
- 宇田秀生選手（PTS4）3位、谷真海選手（PTS4）が2位
- キッズドリームフェスタ in YOKOHAMA
- 観戦者数が過去最多を更新（合計46.5万人）
- エリート女子の高橋侑子選手が4位入賞（WTS自己最高位）

2020 2021へ。Yokohama Future Project開催
- 第11回大会の見合わせを決定
- 11月 Yokohama Future Project始動（4つのプロジェクトを実施）
- YFP開催により、新生活様式での開催検証と新たな取り組みへのチャレンジ

2021 オリンピック・パラリンピック代表選考会を実施
- 海外選手受入計画を策定し、2年ぶりに大会を開催。世界33の国と地域から183名が出場
- 初の無観客開催（全競技テレビ/ライブ配信を実施）
- エイジバイク・ランコースをリニューアル
- 新たなイベントブランディングの導入

2022 ニューノーマルの大会運営「未来」へのリスタート
- ウクライナ選手に対するスポーツ支援を実施。大会後、選手団が山中竹春市長を訪問
- 3年ぶりに象の鼻パークに会場を移して「ハマトラFES（旧 EXPO）」を開催
- エイジバイクコースをリニューアル
- 上田藍選手が初代ハマトラアンバサダーに就任
- 横浜大会に挑戦する女子アスリートを応援「ハマトラ女子企画」スタート

2023 横浜ならではのにぎわいの創出
- パリ2024オリンピックのポイント獲得対象レース
- ハマトラFESに44,000人の観光客や市民が来場
- ハマトラ未来プロジェクト始動
- 4年ぶりにキッズプログラムを再開

2024 第2ステージ最終年 パートナーシップに支えられる大会づくり
- パリ2024オリンピック・パラリンピック代表選考大会
- 市民参加型スポーツイベントで日本初の「スポーツホスピタリティ」を導入
- ワールドトライアスロン理事会の誘致・開催
- ワールドトライアスロンのサステナビリティ認証「GOLD」を取得
- 大会で発生したペットボトルの水平リサイクルシステム及びスポーツウエアリサイクル回収の仕組を構築

2025 第15回目の節目の記念大会として開催 第3ステージの始まり
- 記念事業として「ポンツーンウォーク＆稚魚放流」を実施
- エリート選手記者会見を横浜市市庁舎アトリウムで初開催
- 2027年国際園芸博覧会との広報連携
- ハマトラ FESを実施。2日間で延69,000人が来場
- ワールドトライアスロンのサステナビリティ認証「GOLD」を取得

2026 山下公園がにぎわう笑顔と熱気に包まれた2日間
- 2日間とも天候に恵まれ多くの方が来場（観戦者数延35.3万人）
- ハマトラFESの会場を7年ぶりに象の鼻パークから山下公園に移して開催（2日間で延72,000人が来場）
- ファミリーFUNランを初開催（昨年は雨天中止）
- 木村潤平選手（PTWC）3位、宇田秀生選手（PTS2）3位、保田明日美選手（PTS2）3位

2026-2030 短期・中期目標

2026-2027
- 安全で魅力ある新エイジバイクコース設定及び国際大会にふさわしいエイジ参加者の拡大（2,000名）
- 開港周年（167回）事業として様々な記念イベントと同時開催
- 山と海が連携したグリーントライアスロンの開催
- タンデムバイクが山下公園通りを疾走
- 大会に係わったキッズやエイジが横浜大会のさまざまな場面で活躍
- GREEN×EXPO 2027との連携事業の実施（2027年）

2028-2030
- ロサンゼルス2028オリンピック・パラリンピックポイント対象大会として開催
- 開港170周年事業の一環として記念事業の実施（2029年）
- ロサンゼルスオリンピック・パラリンピック出場選手が活躍
- 大会を通じ大都市横浜の環境への保全と創造、市民とともに醸成してきた共生社会が世界から評価
- 山下埠頭及び周辺の再整備が終了し、世界一魅力あるコースとしてバイク・ラン競技を実施
- グリーンカーボン事業とブルーカーボン事業の一体的な推進
- 第20回記念大会として20周年記念事業の実施（2030年）

拡大版はこちら